

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### ムシは花の大事なお友だち

木下順次（千葉市）

日 時：2014 年 8 月 3 日（日）10 時 30 分～12 時

天 候：晴れ

参加者：大人 7 名 子ども 5 名

担当指導員：芳我めぐみ・木下順次

真夏を盛りにとばかり、早朝から気温がどんどん上がります。風はそれほどでもなく、ムシにとっては活発に活動できる陽気なのでしょうが、花をつけている野草や樹木はあまり見かけません。いわゆる“猛暑”に参加者自体もいつものように 15 分前ぐらいから三々五々に集まってくるという風でもないため、もしやひとりも参加者がいないのではと、心配しましたが、やっとひとり男性が……。結局開始の時間には参加者 1 名。管理詰め所の裏手にちょうど開花時期のカワラナデシコが咲いていましたので、谷津田にも自生していたものが消滅してしまったのを機に、移植したことを説明しました。「今日は、個人観察会ですね。」などと会話をしていると、遅れて親子連れや常連さんがやって来だしたため、あっという間に 12 名になりました。あらためて、15 分ほど遅れて、観察会のスタートです。今日は、ピンチヒッターだったため、もともと詳しい分野ではありませんでした。テーマに沿った内容は芳我さんに解説してもらいながら、自身も勉強の回と考えて臨みました。

谷津田へ降りるスギ林の中の林道では、セミの抜け殻が樹木の幹や灌木の葉裏にいくつもぶら下がっています。最初は自分で見つけられなくて元気のなかった子も、目が慣れてくると次々に自分で発見しては、お父さんお母さんに報告しています。土がついて灰色っぽいもの、つやつやした褐色のもの、大きさもいろいろです。二股道の上手を行くと、前夜に咲いてしぼんでしまったカラスウリの花がたくさん落ちています。先がくしゃくしゃになった細いラッパのような白い花がらは、はじめてみるものだったので、最初はカラスウリとは気づきませんでしたし、茎の先についているものは触るとぼろぼろおちるので、とても面白かったです。自宅前の植栽にはカラスウリが混じっているの、仕事帰りに毎日花を見ており、翌朝は花がらも見ているはずなのに、全然気が付いていませんでした。

谷津田では芳我さんが本日のテーマに合わせて自宅近辺から持ってこられた様々な花の実物や写真などで解説をしていただきました。ベコニアは蜜を持たずに花粉を提供するのみのため、何も持たない雌花は雄花にそっくりとなってムシを騙して受粉に協力させるとか、オカトラノオは穂状に集まった小さな花が下から順番に時期をずらして咲くことで受粉を確実にするとか。知らないことばかりで、途中からは参加者の皆さんと一緒に聞いてしまいました。

子どもたちは、もっぱら動くもの（アメリカザリガニ、ドジョウ、シュレーゲルアオガエル、様々なトンボ類）に興味が行っていましたが、ウマノスズクサをほぼ食べつくしたジャコウアゲハの幼虫に興味深く観察していました。

植物とムシの様々な共生については知らないことばかりで担当をしてしまい、芳我さんにはご迷惑をおかけしましたが、これをきっかけにまた興味の枠を少し広げてこのテーマでも、日々観察をしていきたいと思います。